小中野中

課題解決に向け、主体的に授業に取り組む生徒の育成

～身に付けた知識・技能を生かし、協働的に活動する学習を通して～

（３年計画の２年次）

校長　　高 橋　直 浩

１　研究主題について

本校生徒の実態として、ここ数年「学習意欲・学力の差の拡大」が課題として挙げられたため、言語活動を意識した学び合い、ユニバーサルデザインを意識した板書、家庭学習ノート（こなノート）等の取組を行ってきた。昨年度は、問題解決型学習を取り入れたり、学びの過程を生徒自身が理解したり、既習事項を想起できるようなワークシートを作成するなど、生徒が主体的に取り組める場面を設定し取り組んだ。例年に比べてペアやグループ活動が制限されるなかで、その授業形態を見直し、生徒同士が身に付けた知識・技能を生かし協働的に活動できる場面を各教科で考え授業に組み入れるように努めた。

その結果、生徒は課題を発見したり解決する方法を試行錯誤したりしながらも、主体的に取り組む姿勢がみられるようになった。また、言語活動の場面では、どのように伝えたら相手により分かりやすく理解してもらえるかなど、コミュニケーションの取り方にも意識して取り組む姿も見られた。しかし、中位・下位の生徒の中には既習事項を忘れているためにワークシートやヒントを見ても気付くことができない、活動にすぐに取りかかれず止まってしまう、相手に話しかけられるのを待つ生徒もいた。「主体的」という点において、まだ不十分であり、生徒自身が気付き、判断できるような学習内容の提示、定着を図るという課題が残った。改めて主体的に学ぶ生徒の姿とはどういうものか、その育成には何が必要かを見直し、共通理解した。

今年度は、課題解決に向けて生徒自身がどのようにすれば解決できるか見通しや目標をもたせることに加え、身に付けた知識・技能を生かすために、授業と家庭学習の連動や朝自習、各教科のコンテストの実施等による学習内容の定着を図ることとした。また、生徒自身の言葉で課題解決の過程を振り返らせ、他者に説明することで、理解を深め、達成感や成就感を実感させることにも重みを置くこととした。主体的に学ぶ場面を考え様々な授業形態を工夫・実践し、お互いに参観しあうことで教師同士の資質を高め、主体的に授業に取り組む生徒集団を育成したい。

２　研究のねらい

課題解決に向けて生徒自身がどのようにすれば解決できるのか見通しをもたせたり、身に付けた知識・技能を想起させたりするなど、主体的に課題に取り組ませ、振り返りの場面を設定することにより、生徒のさらなる学習意欲の向上に努める。

３　研究仮説

(1) 各教科及び学級活動、総合的な学習の時間において、課題解決のために生徒に目標や見通しをもたせ自分の言葉でまとめる振り返りの場面を設定することで生徒は達成感や成就感を味わい、学習意欲の向上が図られるであろう。

(2) ユニバーサルデザインを意識した板書やワークシートを工夫し、学びの過程を生徒自身が理解することにより、学習内容の定着および学力の向上が図れるであろう。

４　研究内容

(1)　「わかった・できた・身に付いた」を実感できる授業の工夫（授業力の向上）

ア　主体的に学習課題に向かわせるための工夫

①　課題に対して目標をもたせる　興味や関心・見通し・自分と結び付ける

②　自分の言葉で振り返らせる

(2) ユニバーサルデザインを意識したワークシート・板書

ア　ワークシート　思考の仕方・スキルの定着化・家庭学習との連携

イ　板書　　授業のポイントがわかる

(3) 学校図書館を活用した授業の設定

(4) お互いの指導技術を学ぶ機会の設定

(5) 諸検査の結果を生かす授業の工夫

５　研究の経過

(1) 研究仮設に基づく授業研究

月	日	授業研究　全体会等
4	8	第１回校内研究　全体会 研究についての共通理解
7	6	教育指導課・総合教育センター学校訪問
8	17	第２回校内研究 ｈｙｐｅｒ―ＱＵの結果分析、一人一台端末活用研修
9	1	ローテーション道徳、授業参観（～12 月）
10	5 25	第３回校内研究（要請訪問・授業研究）数学　授業者　小笠原　純子教諭 初任者研修研究授業（保体・日向）
11	25	第４回校内研究 小６による授業参観
12	13	中堅教諭研究授業（英語・一ノ渡）青森県英語教育推進研修　研究授業（英語・土川）
1	7 24	第５回校内研究全体会(Q-U 分析 2 回目・今年度の反省と次年度に向けて、一人一台端末活用練習) 第６回校内研究（授業研究）道徳　授業者　教諭　日向　祐弥

(2) 一般研修

4	22	生徒に関する情報交換（生徒指導・健康面など）
8	17	一人一台端末活用研修　講師 八戸市総合教育センター主任指導主事 大下洋一先生

６　研究の成果

(1)　一人一台端末活用研修を生かし、授業でも各教科において、場面に応じて端末を使用することにより、生徒が主体的に授業に取り組む場面が増えた。

(2)　自己評価シートや撮影した動画の振り返りなど生徒自身で授業目標に対しての振り返りをすることで、次時の学習意欲へつなげることができた。

７　研究の課題

(1)　端末導入により主体的に取り組む生徒が増えた一方、受身的で学習に集中できていない生徒もいる。授業形態、サポート体制について引き続き学校全体で対策を考え取り組む必要がある。

(2)　職員の端末利用スキルや「主体的」に対する概念にも差があるため、現状に即した研修の充実やきめ細やかな共通理解を図る必要がある。

（記入者　土川　真紀子）